

2009.10.16 (金)

徳島新聞

徳大新学長に香川氏



香川征氏

徳島大学は15日、青野敏博学長(73)の任期満了(2010年3月31日)に伴う学長選考会議を開き、次期学長に香川征徳島大学病院院長(64)を選んだ。10年4月1日、文部科学省から正式発令される。任期は14年3月31日までの4年間。

(2面に「人」)
徳島市新蔵町の大学本部で開いた記者会見で香

川院長は「予算削減など大学を取り巻く環境は厳しい。進むべき方向をしっかりと見定め、教育や研究の内容を充実させて存在感のある徳島大学を目指す」と抱負を述べた。同大では8月に学長候補者の推薦を受け付けた。しかし、期限内に推薦があったのは香川院長だけだった。今月9日、香川院長の信任を問う学内投票を実施。助教以上の教員と課長補佐級以上の職員ら有資格者956人のうち727人(投票率76%)が投票し、9割を超える信任を得た。投票結果を参考に、これまでの実績や所信・抱負などから学長選考委員(飯泉嘉門知事ら外部委員7人を含む14人)が審議。全会一致で香川院長を次期学長に選んだ。香川院長は高松市出身。1969年に同大医学部を卒業後、同学部助手、助教を経て8年から教授。99年に医学部付属病院院長、2003年から現職。専門は泌尿器科学。同大出身者が学長に就任するのは、武田克之氏以来13年ぶり。



かがわ すずむ
香川 征さん

国立大学法人化から6年。少子化や国の予算削減などで大学の競争が激しさを増す中、生き残りをかける徳島大学の取り組みが注目されている。地域活性化をけん引する知の拠点であり続けられるよう、教職員一丸となって大学づくりに励む。重責を感じながらも決意の言葉は力強い。

泌尿器科学が専門の医師で、19

99年に徳島大医学部付属病院(2003年から徳島大学病院)の院長に就任。老朽化した病棟の建て替えを推進し、女性や糖尿病患者を対象にした特定外来を設けた。訪れる人の利便性を考え、他の大学病院に先駆けて院内にコンビニエンスストアやコピー店も。「まずは、しっかりとした情報収集。いいと思ったことはすぐ実行する決断力も必要」。病院経営で培ったノウハウを、大学全体の組織運営にも役立てるつもりだ。

徳島大学の次期
学長に選ばれた

今、痛感しているのは、企業が求める能力と大学が育てる人材のギャップ。「大学で学んだことが、社会で生きないという意味がない。学生が本当に学びたいものは何か、正確に把握し、教養課程を再構築する」と力を込める。学部の枠を超えた教育・研究の推進や国内外の大学教員、学生が交流する「連携大学院」の実現など、大学の「体力強化」へ温めている構想はいくつもあ

「フットワークの軽いアイデアマン」が周囲の評。自身は「せっかちなだけ」と苦笑する。大学時代は野球部に在籍。レギュラーにはなれなかったが、貴重な経験だったと振り返る。「いろいろな仲間ができるのが何より。学生は勉強だけでなく課外活動も楽しんでほしい」
時間を見つけては庭木の剪定と草むしりに励む。「無心になれて運動にもなる。きれいになった庭を眺めると気分がいい」。2人の娘は独立し、久代夫人(63)と2人暮らし。藍住町奥野。64歳。